The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

June ISSUE



June, 2024 Volume 146

学校での安全とは

学校に勤務する者にとって、6月8日という日は忘れられない日、特に学校での安全について考える日ではないでしょうか。

2001年6月8日に大阪教育大学附属池田小学校で起きた痛ましい事件は、今でも私の脳裏から離れられません。

当時公立小学校で5年生の担任をしていた私は、2時間目が終わった後の休憩時間に職員室へ入ると、普段ついていない職員室後方のテレビがついているのに気がつきました。

ヘリコプターの音とともに小走りに整列して校庭に避難する児童を写した映像が流れ、はじめは「何が起きたん?」「どこの学校?」と思いながらテレビを眺めていました。同じ大阪の学校での出来事であることも知らずに。

状況がわかってくるにつれ、そう遠くない場所でとんでもないことが起きてしまったと体の震えが止まりませんでした。

この事件までは、私の勤務していた地域でも「開かれた学校」「地域の学校」であることが大切にされており、外からは校内が見えないようになっていたブロック塀を取り壊して低いフェンスに取り換えられたり、日中も正門は全開で、地域に住む方が比較的自由に学校へ出入りできたりしていたことを覚えています。

しかしながら、このの事件を境に、状況は一変しました。正門は常に閉門、施錠され、教職員は職員証を携帯、 校内や教室には非常ボタンが設置されるようになり、避 難訓練も「防火」「地震」に加えて「防犯」も始まりました。

事件から2年後、私は池田小学校の姉妹校に赴任する

ことになりますが、その年季の入った校舎にも各教室の前と後ろに2か所、さらに校内隈なく非常ボタンが設置されました。一度ボタンが押されると、けたたましいブザーの音が学校全体に鳴り響くと同時に、職員室のモニターにボタンか押された場所が明示されます。そして職員室から放送で「〇年〇組前(のボタンが押された)!」と校内全員に知らせ、防犯担当教員がさすまたを持ってボタンの押された場所に走る、という取り決めをしていました(幸い誤って押されることばかりでしたが)。

一口に「学校での安全」と言いましても、先述のような不審者侵入による犯罪行為だけでなく、授業中(道具や器具の適切な使用など)・休憩時間・校外学習・登下校での事故防止、雨の日の安全管理、気象警報発令時の安全管理など、その内容は非常に多岐にわたっています。

本校でも、火災や地震、あるいはそれらを複合した避難訓練を年3回、また児童から保護者様への引き渡し訓練を隔年で実施するとともに、Jアラート訓練、そして警察署や消防署のご協力のもと、教員への防犯訓練や救命救急講習を毎年行っているところです。

社会で最も安全でなければならないはずの学校で、凶悪な事件が起こってしまったことは、23年たった今でも私たちの記憶に残っています。この記憶をいつまでも風化させることなく、6月8日が来る度に、私たち学校関係者は、学校の安全について考えるきっかけになればと思います。

【参考文献】

大阪教育大学編著『小学校における安全教育ハンドブック』(ぎょうせい、2007年)

教頭 風間 寛





キリスト教教育

6月:思いやり June: Compassion

聖書:「ところが主は、『私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ』と言われま した。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。 それゆえ、私は、弱さ、侮辱、困窮、迫害、行き詰まりの中にあっても、キリストのために喜んでいま す。なぜなら、私は、弱いときにこそ強いからです。」

コリントの信徒への手紙二 12章 9-10節(聖書協会共同訳)

今から 100 年以上昔、イギリスのとある町にウィルバートという名前の少年がいました。彼が住んでいた家の すぐそばには鉄道があり、夜になると少年はベッドの中で蒸気機関車の走る音や汽笛を聞きながら、機関車が人 間と同じような感情を持っているように感じていました。

やがて大人になったウィルバートは結婚し、クリストファーという男の子が生まれました。ところがこの子が 2歳の時に麻疹にかかって、しばらくずっとベッドから離れられないことがありました。いくら病気とは言え、2 歳のやんちゃな男の子が何日もベッドに釘付けになっているのは相当退屈で、辛いことです。

この時、父親であるウィルバートはどこへも遊びに行けない息子のために、ベッドの傍らで次々と自分が創作 した機関車たちの物語を話して聞かせました。これが後に世界中の子どもたちを夢中にさせた汽車の絵本 ~「機関車トーマス」~シリーズの始まりとなったのです。

ウィルバートの生家や晩年の自宅など、彼が住んでいた場所は今や手厚く保護の対象となっているようですが、 よく考えてみると機関車の走る音や汽笛が毎晩聞こえてくる場所というのは、人によっては「騒音の絶えない住 環境」ということになるかも知れません。また幼い息子が2歳で重い伝染病に罹り、長期間病床を離れられない ことも「限りなく不憫で、不運な出来事」と考えられなくもないでしょう。しかしながらウィルバートは、どん な状況にあってもそれを不幸だとは考えませんでした。父の仕事を受け継いで牧師となったウィルバートが働い ていたロッドバラ教会では、彼の召天後作成されたトーマスのステンドグラスを見ることができます。

私たちを取り巻く環境は常に理想通りというわけにはいかず、様々な忍耐を強いられることもあります。もし そこをすぐに脱出するのが難しいようであれば、「これは神が何か、私にしかできない特別な仕事を託そうとして おられるのかも知れない。」と考えてみては如何でしょうか。Christian Education Committee チャプレン石川眞弓



作者の Wilbert Vere Awdry 牧師と 息子の Christopher Awdry



Wilbert Vere Awdry 牧師 (1911 - 1997)



上:Awdry 牧師が勤めていた Rodborough 教会

下: 教会内にあるトーマスのステンドグラス

<お知らせ>

① 6月5日(水)花の日礼拝 日頃お世話になっている方々に花を贈ります。 お子様に花を一輪、お持たせください (大きな花束は要りません)。 ② 6月11日 (火) おにぎり献金

以下の施設を覚えて、献金を捧げます。

・国内:岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、 北陸学院キリスト教センター(石川県能登半島地震支援金口)

・海外:日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「トルコ・シリア大地震」・「ガザ人道危機」

賛同していただける方は、お子様に献金をお持たせください。



G4 Unit 1 Rubric 学年大会議

4月にスタートしたG4も、早や2ヶ月が過ぎました。|日|日と、子ども達の成長を確実に感じている毎日です。4年生になって、子ども達は、初めてRubricを自分たち自身で決めてから、Unit Iのサマティブに取り組みました。

これまでは、サマティブの Rubric は 教員から決められていた物を使ってい ましたが、Unit I の 3 つの Key Concepts をもとに探究に取り組んだ 自分たちの成果を、自分たち自身の評 価基準でどれだけがんばったかを確認 しようということになりました。



まずは、I 組 2 組それぞれで、Central Idea である「人々は自分たちの周りを理解し、生活する」 に沿いながら、Key Concepts である"Form", "Change", "Connection"の観点から自分達が選択した「自然現象」をどう分析するか。その探究の基準を自分たちで決めることの難しさに直面しまし



た。決めるにあたっては、自分たちで司会者を決め、各クラスの Rubric を作るのに 3 時間持ちました。初めは手探りで司会になった子どももどのように話し合いを進めていけばいいのやら暗中模索の様子でした。しかし、クラスのメンバーが意見を述べて次第に話の方向が定まってきました。厳しすぎれば達成が困難になり、簡単過ぎれば自分達の取り組みが疎かになってしまうというジレンマに苦しみながら Rubric を考えました。

次に各クラスそれぞれに考えた Rubric を教室のパーテーションを開放して学年全体で話し合って決めることができました。ここでも、評価基準に対しての考え方が合致している点、大きくずれていてなかなか折り合う点が見つからないなど話し合いは難航しました。その大変さを乗り越えてできたRubric は子ども達の心に刻み込まれました。その後は各々が自分のできる限りの力を振り絞ってUnit I のサマティブに打ち込んで、それを完成させることができました。

今回の活動を通じて、子ども達は与えられた Rubric から自分たちで作りだした Rubric を用いて自分自身のサテティブにチャレンジするという一段上の活動をし始めました。これが 6 年生のExhibition へとつながり、より子ども達を探究の猛者にしていくことと信じています。

さて、4年生の子ども達は6月19日から21日の3日間、宿泊 学習を体験します。この経験もきっと子ども達を大きく成長させてく



れるものになると信じています。Unit 2 でも今回の経験を活かして自分たちで納得のいく Rubric を作ってくれると信じています。これからの4年生の子ども達の成長を温かく見守っていただければ幸いです。





梅雨のゆううつを吹き飛ばそう

6月と言えば梅雨の時期ですが、今年の梅雨入りは6月 中旬ごろと、例年に比べて遅くなると予想されています。 じめじめと沈んだ気持ちになりがちですが、そんな時こそ 気持ちは晴れやかに過ごしたいものですね。

気分を上げるアイテムの一つに、このような本はいかがで しょうか。

『あめがふってよかったね』よしいたかこ/作 石倉ヒロユキ/絵 佼成出版社



あしたはようちえんのうんどうかいで す。でも、そとはざあざあぶりの雨。

「あめ、やめー。あめ、ふるなー。」とさ けぶけんちゃんですが、かたつむりのデン デンとであって…。けんちゃんとデンデン の温かな心の交流がほほえましい雨の日の 絵本です。

『ぼくんちはボクンチ』山崎克己/作 偕成社



急に雨が降ってきたから、ぼく、かさも って、おつかいにでたおかあさんにとどけ ようっと。

でも、雨がひどくなってきて……。そし たら、ぼくのおうちが助けにきてくれた。 だって、ぼくのうちは、かたつむりなん だ!家の中だってすごいんだ!

楽しい空想がふくらむ絵本です。

『ふしぎなカサやさん』みやにしたつや/作・絵 金の星社



タヌキのおじさんが売っているカサは開 くと、ふしぎなものが空からたくさん降っ てきます。ブタくんがお寿司の絵のカサを 開いたとき、はらペこオオカミが登場。大 変だ! 次々にふしぎなことが起こる楽しさ いっぱいの絵本です。

『かさ』太田大八/作・絵 文研出版



雨が降りしきる公園の脇を、女の子が歩 いています。真っ赤な傘をさして、大きな 黒い傘を脇に抱えて。友達とすれ違い、線 路の橋を越え、歩道橋をわたって、女の子 と赤い傘が進んでいきます。

やってきたのは駅。そう、おとうさんを 迎えに来たのです。

これから訪れる雨の季節に読み返したい 一冊です。

6月の主な行事・予定

6/6~6/7 G2 宿泊学習 / G2 Overnight trip

6/6~6/7 G2 宿泊学習 / G2 Overnight trip 6/19~6/21 G4 宿泊学習 / G4 Overnight trip		
1	土	私小連音楽会 / Kyoto private elementary schools concert
2	日	
3	月	Unit2(week2)
4	火	
5	水	花の日礼拝/ Flower worship service
6	木	G2 宿泊学習 / G2 Overnight trip
7	金	G5 中学校進学保護者説明会/ The G5 explanatory MTG of entering middle school G4 校外学習 / G4 Excursion G2 宿泊学習/ G2 Overnight trips
8	土	
9	日	
10	月	Unit2(week3)
11	火	
12	水	
13	木	Swimming (G4, G5. G6)
14	金	
15	土	第2回学校説明会 / #2 Explanatory Day (児童はお休みの日です。)
16	日	
17	月	Unit2(week4)
18	火	
19	水	G4 宿泊学習 / G4 Overnight trip Student Committees
20	木	G4 宿泊学習 / G4 Overnight trip Swimming(G1, G2, G3)
21	金	G4 宿泊学習 / G4 Overnight trip
22	土	
23	日	
24	月	Unit2(week5)
25	火	
1	1	同志社研修(教員)のため午前授業/ AM
26	水	lesson (Doshisha Teachers' training)
26 27	水木	lesson (Doshisha Teachers' training) Swimming (G1, G2, G3)

7月の主な行事・予定

7/16~18 学期末カンファレンス(希望)

7/19 終業礼拝

